

『新しい小田原』へ、市民の力を集めよう！

加藤けんいち（無新、城山）



地下街の閉鎖に象徴される地域経済の衰退傾向。市立病院の診療科閉鎖など地域医療体制への不安

在宅・在区域での介護や看護の受け皿となるべき人材や拠点の不足など、地域福祉のこれからに対する不安。子どもたちを育てる地域コミュニティの弱体化。人知れず進行する水資源の枯渇、いのちを支えるべき農地の荒廃……。

片や、総額1500億円に及ぶ借金を抱え、一切の無駄使いが許されない市の財政状況。さらに今は、少子化・高齢化社会の進行

に伴う自治体の税収減と、社会的コストの増加が同時に到来します。このような厳しい局面を切り拓くには、「エライ人たちに任せておけば大丈夫だろう」「税金を払っているのだから役所が何とかするだろう」といった、これまでの発想を捨てなければなりません。

「いつまでも安心して暮らすことのできる、希望と活力に溢れる小田原を創るためには、限られた財源を最大限に活かすべく、生活者も事業者も市職員も一体となり、知恵を力を合わせ共に地域の経営を担ってゆく仕組みを、今ここから作り始めることが必要です。」

私は、この状況を乗り越えてゆくための指針として、大きく3つを掲げます。
第1は、「生活の安全・安心・

充実を最優先すること。貴重な税金は、何よりもまず福祉・医療・教育などの分野に手厚く配分、「いのち」をしっかりと支える態勢を確立すべきです。」

第2に、「地場産力と市民力で、まちを元気にすること。自然・歴史・文化・産業など、小田原はど地域経済を元気にできる素材に恵まれた地域はありませぬ。これまでそれが活かされなかつただけなのです。」

第3は、「市民の声と願いを実現する市政をつくること。地域を支え、地域を元気にする主役は市民です。市民の考えや願い、希望がしっかりと反映され、市民の持てる能力が十全に発揮される地域運営の仕組みを創るのです。」

それらを実行できれば、この小

田原は日本の地方都市再生のモデルとなることができるでしょう。（詳しくは街頭にて配布中のニュースレターか、4月に完成するマニフェストをご覧ください。）

小田原に生まれ育ち、この地域を隅々まで歩き、地域の様々な仕事や暮らしの現場に精通し、様々な市民の活動の立ち上げに係ってきた経験が、私の強みです。市民が主役。希望と活力溢れる『新しい小田原』を創るために、若さと誠実さとハートで、市民の皆さんと心を合わせ一緒に歩んでゆきます！

【プロフィール】

*昭和39年5月小田原生まれ43歳。小田原高校を経て、京都大学法学部を卒業。

*「有限会社あしがら総研」（地域シンクタンク）代表。